

はじめに

『保育リーダーシップ評価スケールPAS（原題 *Program Administration Scale; Measuring Whole Leadership in Early Childhood Centers - Third edition* = PAS, 2022, Teachers College Press）』は、大阪総合保育大学総合保育研究所の〈保育環境評価スケールプロジェクト〉2023年度の活動の成果物です。

昨今、幼児教育・保育施設が提供する保育の質が、かつてないほど問われています。保育の質はともすれば、直接子どもに関わる「保育者のありよう」に期待されがちです。保育者の「資質向上」が求められますが、その資質の発揮は働く環境、すなわち施設や設備が整っているか、よい同僚がいるか、研修を受けてその成果を発揮できるか、待遇も含めて働きやすい条件か、などの条件整備の程度に大きく依存します。この条件整備は、施設の長のリーダーシップにかかっているといっても過言ではないでしょう。

当プロジェクトでは施設の長／園長のリーダーシップに注目し、「評価」の先達であるアメリカで利用されているPASの翻訳を敢行しました。監訳にあたった埋橋はすでに、『保育環境評価スケール①幼児版（原題 *Early Childhood Environment Rating Scale-Revised Edition*、通称 ECERS-R）』（2004年、法律文化社）をはじめとし、共訳も含め『保育環境評価スケール』を数冊翻訳しています。「質」という抽象的な概念（見えないもの）を具体的な事象（見えるもの）に落とし込み、その事象の有無を判断し、一定のルールに従って数値化することを営々と続けてきました。近年は日本でもスケールを用いた（現在は ECERS-3）大規模な調査研究が発表されています。

海外のものは日本と文化・社会慣習が異なるから参考にならないでしょうか。思い込みで決めつけないで、何がどの程度異なるのか、日本の文化・慣習と比較する作業が大切です。時には、こういう見方ややり方があるのか、と参考になることもあるでしょう。比べることで日本の文化や慣習の良さや改善すべきところも出てくるでしょう。とはいえ、すべての項目や指標を日本に当てはめてみることには、やはり無理があります。日本と事情が違うことはその意味を考え、自園や地域の状況に応じて取捨選択しての活用、調査での利用を望みます。

プロジェクトの進行をサポートし、出版の機会を与えてくださった、大阪総合保育大学に心より感謝申し上げます。短い期間での発行にご尽力くださいました法律文化社編集部の畑光様、ありがとうございました。そして月2回というハードな研究会を重ねて発行にこぎ着けることができたのは、ひとえにプロジェクトのメンバーの熱意とパワーの賜物であることを申し上げます。

2023年11月

大阪総合保育大学総合保育研究所
保育環境評価スケールプロジェクト代表
埋橋 玲子

PAS 第3版 序文

PAS 第2版発行後の10年間で、保育リーダーシップの重要性を強調する多くの研究がなされました^a。行政慣行を測定、監視、改善するための信頼できるツールとしてPASの有用性を強調する実証研究^bも行われています（詳細はpp. 75-78文献欄参照）。

- a; Abel, Talan, & Masterson, 2017; Aubrey, Godfrey, & Harris, 2012; Bassok, Bellows, Markowitz, & Sadowski, 2021; Bloom &, 2015; Bloom, Hentschel, & Bella, 2013; Caven, Khanani, Zhang, & Parker, 2021; Dennis & O'Connor, 2013; Douglass, 2017; Douglass, 2018; Gittell, 2016; Hewett & La Paro, 2020; Hujala et al., 2016; Institute of Medicine & National Research Council, 2015; Kangas, Venninen, & Ojala, 2015; King et al., 2015; Kirby et al., 2021; McCormick Center for Early Childhood Leadership, 2021; Minkos et. al., 2017; Whalen, Horsley, Parkinson, & Pacchiano, 2016; Zeng, Douglass, Lee, & Del Vecchio, 2020; Zinsser, Denham, Curby, & Chazan-Cohen, 2016
- b; Arend, 2010; Bloom & Talan, 2006; Derrick-Mills et al., 2016; Doherty, Ferguson, Ressler, & Lomotey, 2015; Etters & Capizzano, 2016; Kagan et al., 2008; MCECL, 2010; McKelvey et al., 2010; Mietlicki, 2010; Miller & Bogatova, 2007; Rous et al., 2008; Talan, Bloom, & Kelton, 2014; Yaya-Bryson, Scott-Little, Akman, & Cassidy, 2020

同時に、PASは、州のQRIS*、およびNAEYC*による認証の準備段階の自己学習プロセスにおいて有用なツールであることが明らかになってきました（Means & Pepper, 2010; Stephens, 2009）。各指標の内容は幼児教育・保育施設の施設長が管理・運営の質を向上させていくにあたり、参照できる目安となっています。

【*訳注：QRIS = Quality Rating and Improvement System 保育の質の測定と向上システム

NAEYC=National Association for the Education of Young Children 全米乳幼児教育協会】

これまでの研究のレビューでは第2版の大幅な改訂の必要性は認められませんでした。幼児教育・保育の分野に影響を与える最近の2つの社会的動向に緊急に対応する必要がありました。1つ目は公平性と社会正義を考慮することであり、2つ目は、幼児教育・保育の分野に限らず、米国経済全体を脅かす労働力の危機です。PAS指標の文言は、人種的公平性と社会正義的展望から見直され、改訂が行われました。労働力の危機により、運営主体や子どもの年齢に関係なく、類似する資格に対しては報酬を平等にする運営上のリーダーシップの必要性が高まっています。保育者の指導性を高め、キャリア開発を促し、振り返り・計画・同僚との学び合いの時間を担保するようなサポートは、質の高い保育を牽引するリーダーシップの重要な要素です。

PAS 第3版によりスケールの信頼性と妥当性を裏付ける最新情報が共有されることとなります。PASは2004年の初版発行以来、常に「構築中」の状態といえます。PASを使った人々は管理運営の質の指標について鋭い質問をし、PASの各項目について洞察力に富んだコメントをしました。その人々は、PASが幼児教育・保育の多様な状況において管理運営についてどのように測定し、質を向上させていくかについて明らかにしていきました。全国各地で幼児教育・保育のさまざまな部門に属している実践者でもあるその人々は、自施設の自己改善、調査研究、トレーニング、大学での指導、認証のファシリテーション、保育の質の監視、メンタリング、コーチング、組織的

コンサルティング、および政策立案にPASを使用してきました。広範囲にわたる関係者からのフィードバックに基づいて、園のあり方が多様である状況のもとに、その管理運営の質を測定するPASの信頼性を高めるために、多くの注釈が追加されました。

注釈の追記はネット上でも入手できますが、まずはPAS信頼性トレーニングに参加する人に伝えられます。それらの追記は第3版に組み込まれました。それにより、自己評価にPASを使用する施設長だけでなく、調査研修のために信頼度を高くPASが使えるように訓練を受ける人、保育の質を監督する立場の人、そして保育の指導にあたる人も、より正確にPASを使用できるようになるでしょう。

PAS第3版では、幼児教育・保育の場の変化を反映し、管理運営の質について新たな根拠に基づいた情報を組み込みました。その結果、以下のような改良が加えられました。

- PASは、管理運営の全体的なリーダーシップを、本質的なリーダーシップ、教育上のリーダーシップ、管理上のリーダーシップの3つの領域で測定します。
- 全体的なリーダーシップがより適切に表現できるように、サブスケールと項目を再構成しました。
- 全体的なリーダーシップの3つの領域については〈項目22 園(施設)長〉で取り上げています。
- 園のクラス数に応じ保育者の指導性が最大限に発揮できる人員配置を行う、しっかりとした管理運営が、質の要素として認識されています。
- 包摂性、公平性、文化的および言語的多様性を実現させるリーダーシップをより重視しています。
- 意思決定を共有し、リーダーシップを分散する仕組みに新たな焦点が当てられています。
- 情報セキュリティの促進に注目しています。
- 保育の質の継続的な向上につながるさまざまな実践を、保育室と組織全体の両方で評価します。

上記のほか、改訂にあたっては指標を再構成したり、注釈を修正したりしました。